

編集後記

2007年を象徴する漢字に選ばれたのは「偽」である。消費・賞味期限の偽装、原材料の偽装など食を巡る一連の事件が続いた。年が明けて古紙配合率の問題が浮上し、リサイクルの優等生、おまえもかの感を抱いていたら、今度は「毒」である。

やや遅めの春一番が関東地方を吹き抜けたと思ったら、返す刃で日本海側は大雪である。三寒四温のリズムなどどこ吹く風のような日本列島、北海道大学の入試も一日延びた。初めてのことらしい。やはり、温暖化というよりも異常気象というのが正しい使い方の方である。

巻末に『物流問題研究』総目録（第1号－第50号）を掲載している。1980年9月の第1号発行以来、ずいぶん回を重ねてきたものである。とはいえ、『物流問題研究』が所報のタイトルとなったのは、実は2000年7月の35号以来であり、偽装といえは偽装である。21世紀を迎えて心機一転の気概での変更であり、何卒、こちらは目に見て頂きたい。途中からの編集者ではあるが、各号の論文タイトルを眺めていると確かに時代の変化を反映しているようで、若干の自負を覚える。それと同時に既にお亡くなりになられた執筆者も少なくはない。慎んでご冥福をお祈りいたします。

（2008年2月 古井）